

(陳受27第4号)

武蔵野市民文化会館改修工事に関する陳情

受理年月日

平成27年8月27日

陳情者

西久保2-27-20
小島 壮介

陳情の要旨

平成26年7月に開催された「武蔵野市民文化会館改修」にかかわる市民説明会に参加し、これからの武蔵野市の財政展望に対して、あまりにも楽観的な答弁の数々に驚きました。4月の市議会議員選挙で、議会構成メンバーも大きく変わられたこともあり、もう一度、契約議案上程の前に、議会でのご審議と調査をお願いいたします。

特に調査をお願いしたいのは、本事業に約50億円を投入する「合理的な根拠」であります。当初、耐震改修が必要だというお話もあったように思いますが、今や耐震基準も満たしていることがわかり、耐震改修の必要性はなくなりました。さらに、市民説明会では、事業団本体が赤字経営であることについて、「問題ない」との説明があり、納税者のひとりとして、驚愕とともに憤りを覚えました。

武蔵野市の文化振興のために、施設の老朽化を改善したい気持ちはわかりますが、何しろ武蔵野市も人口が少なくなり、高齢化が進み、福祉や医療の財源が厳しくなる時代です。

経営のトップである市長の積極的な改革の方針や経営手法を明確にせず、単なる改修工事に約50億円の公金を投入するのは、いかがなものでしょうか。

国立競技場の見直しは、大英断だったと思います。武蔵野市においても、再度足をとめて、市民の声に耳を傾け、事業の見直しを図られることを強く要望し、以下の点について陳情いたします。

記

- 1 総工費約50億円の大事業に当たり、全市的な文化施設としての費用対効果をどのように試算しているのでしょうか。武蔵野公会堂、芸能劇場、スイングホールとの役割分担や人件費及び運営費用等の実績と展望について、詳細なデータの開示と説明を求めます。
- 2 そもそも、財政援助出資団体の統廃合はどのように進んでいるのでしょうか。武蔵野文化事業団と生涯学習振興事業団は、整理統合されると伺っています。本来であれば、団体の統廃合が先で、その上で経営戦略と計画が示されるべきです。今後の動向について議会に調査を望みます。
- 3 近年では民間の力をかりて、複合施設などに取り組む自治体がふえています。本事業について、検討されておられたならばそのデータの開示と、本事業における財政計画の詳細なデータを求め、市民に議会を通じての説明を求めます。